

令和元年度

事業所名： グループホーム もたい

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500055		
法人名	株式会社 福伸		
事業所名	グループホーム もたい		
所在地	〒029-4203 岩手県前沢生母字中道3番地2		
自己評価作成日	令和元年7月19日	評価結果市町村受理日	令和1年9月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・理念である「やさしいあいづち・こぼれる笑顔、感謝の言葉」を毎日朝唱和し、意識付けをし介護にあたっている。
- ・安全管理の徹底に努めている(緊急時、災害時の連絡体制、避難訓練実施)
- ・すべての利用者様と会話をし、少なくとも1日1回は笑顔がみれる様に、また職員も笑顔で仕事が終わる様にしている。
- ・重度化対応の体制をとり、看取りに関する研修を行っている。
- ・気持ちよく働ける職場を目指し、職員にコーチング研修を行っている。
- ・ホームページを使い、グループホームでの取り組みを公表している。
- ・介護ロボット(眠りSCAN)を24時間使用し、利用の体調管理に努めている。
- ・「外出支援サービス」を利用し、通院介助を行う事で、家族様の負担軽減に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JikyosyoCd=0391500055-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JikyosyoCd=0391500055-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念は、職員で話し合い見直しをしている。理念は、毎朝共有スペースにて、利用者も一緒に唱和している。運営推進会議では活発な議論が行なわれ、委員からの情報提供で、今年「外出支援サービス」を登録した利用者は、受診費用の軽減につながっている。事業所では、現在4台の介護ロボットを導入し、利用者の行動のすばやい察知、夜間睡眠状態の情報の入手、複数利用者の同時確認等の効果があり、職員の安心感につながっている。利用者の重度化と看取り対応に伴い、今後も増設を予定している。職員の研修支援にも力を注ぎ、介護力向上による利用者支援に努めている。昨年の豪雨時に避難した経験から、近隣住民や関係機関との協力体制や実際の避難の在り方の改善について検討である。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和1年8月7日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

令和元年度

事業所名：グループホーム もたい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時、唱和し共有している。(理念を再度確認、理解し実践に繋げている。	5年前に管理者が異動してきた際に、開設以来の理念を職員と話し合い、分かりやすく簡潔明瞭な内容の理念に変更している。玄関や共有スペースに掲示し、朝の申し送り時、職員と一緒に利用者也唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現時点で、介護度、認知的な部分で交流が難しくなっているが、慰問、地区のお祭り等には交流は行えている。ホームページの、ホームの取り組みを公表している。	地元の自治会には加入していない。入居にあたり住所変更した利用者には、市の広報が定期的に届いている。近隣の前沢東幼稚園児がクリスマス会に来所したり、幼稚園の相撲行事を見学している。地元の春・秋祭りには、外出可能な利用者が参加し、地域の方との触れ合いができています。	グループホームの見学会を実施する等、地域の認知症の理解や周知に努力しており、これまでの地域との付き合いに加え、地元自治会への積極的な働きかけを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前地区の方々に、チラシ、見学参加を促した後、地域の行事に参加した時の認知症への対する思いは違った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見を報告し、それを実践に活かしている。(外出支援サービス)	運営推進会議では、活発に意見交換されている。最近では、受診時の送迎について問題提起したところ、「外出支援サービス」と「シルバー人材センター活用による付添」の紹介があり、早速利用の登録を済ませ、費用が半分以下に抑えられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点は、直接電話か、確認に出向きケアに繁栄している。	運営推進会議には前沢総合支所の職員が委員として出席している。加算等、相談の内容に応じ、本庁にも照会している。要介護認定の申請手続き時は、支所に出向いて行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を理解し、極力心掛けていますが、利用者の身の安全を第一に考えやむを得ず施錠をしたりする事がある。(家族の了解のもと)	身体拘束については、隣接のデイサービスセンターと合同の「サービス向上委員会」の中で、会議や研修を行なっている。日常のケアの中で、スピーチロックにならないよう留意しているが、気になる対応が時にはあり、管理者は、的確な対応が出来るスキルの必要性を痛感している。介護ロボットやセンサーマットを活用し、転倒等のリスク回避に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議、サービス向上委員会にて定期的に学び防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を現在利用している方を通じ制度を学ぶ機会を得職員は理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明をし本人、家族様の不案を取り除いている。改正時には、文章を作成し内容を説明し印鑑を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様へのアンケート調査又は、会議等で出た事は相談、要望を話したり、聞いたりし仕事に活かしている。	社長に直接回答する形で、事業所独自の家族アンケートを実施している。職員には直接言えない内容もあり、後日職員に知らせ注意喚起を図った。家族が面会に来所した際は、利用者との会話が弾むよう居室に案内し、帰宅前に利用者の状況を報告しながら要望等を確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議には、社長も参加し職員の要等を聞き、それが反映している。	職員は、年間の目標をたて、その達成に向けて努力している。管理者は、6月と2月に職員と面談し、個人目標の確認や資格取得等、公私両面の支援を行なっている。事業所は、職員の研修会参加に重きを置き、スキルアップの向上に努めている。50～60代の職員にも、コーチング研修の受講を勧めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談、会議等で意見反映に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等には、参加呼びかけている。(交通費、日当でも会社で出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年はまだ行えていないが他の事業所と交換研修し、当事業所の介護向上に努めたい。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の段階で声を聞き、それを職員徹底し信頼関係を築けるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所当初は、家族様との連絡、報告等は職員間で話し合い安心作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思いと、本人の残存機能を理解し支援する様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状態を把握した上で可能な時に、手伝い、会話、レク、で関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、通院時などに、家族様と話し合い情報共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等で居室にて、一緒にお茶を飲み楽しくゆっくり出来る時間を作っている。	家族とは、通院に同行する際に面会している。孫が単独で利用者に面会しに来る場合もある。面会時、家族と一緒に外食したり、自宅で過ごす利用者や身内の葬儀や法事に参列し、親族と交流した利用者もいる。家族が行きつけの理容店に連れて行っているが、家族の高齢化もあり、訪問理容を利用する方が増えている。利用者が「お茶出して」と職員に声掛けするほど、定期的に来所する理容サービスの方との馴染みの関係が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難しい利用者もいるが、レクや軽体操に参加して頂いたり、食事の前後には挨拶をしてもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で中々関係は遠のいてしまっている。特養入所の方は系列会社の為時折顔を出して直に声を聴いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動する際には、本人の意思意向にそうように努めている。	共有スペースでは強い口調で話していても、居室内では「どうもありがとうね」と穏やかな口調になる利用者があるように、利用者の意向が場所によって異にすることを職員は認識している。また、入浴時や排泄介助時の1対1の係わりでは、ゆっくりと話が出来、利用者本来の姿が確認できる場となっている。把握した重要な情報は「連絡ノート」に記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの馴染みの暮らしを変えないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、申し送り等により現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議等にて、ケアカンファレンスで支援の方法を話しあい実践している。職員間での情報共有しアイデア、計画を立てている。	入居時の初回介護計画は、管理者と介護支援専門員が利用者宅を訪問し、家族から確認しながら作成している。毎月のケース検討時、職員全員でモニタリングし、居室担当者が作成した介護計画の見直し案を参考に、介護支援専門員が新たな介護計画を作成している。	介護計画の作成に当たっては、原点に立ち返って所要の手続きを踏まれ、如何なる場合であっても、利用者にとって望ましい介護サービスを提供するための計画であることについて、常に配慮願います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気になる事は、解かりやすく簡潔に記録する様にしている。業務日誌、ノートを活用して情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な、サービスが出来るように、話し合っって対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方より、お祭り、保育園からの行事に声をかけて頂き行く楽しみを感じていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医に上申書を活用して連携をとり家族へも説明し理解を得ている。	入居前のかかりつけ医を継続している。かかりつけ医受診の同行は家族が原則で、生活や健康の状況を上申書として提供している。常勤の看護師が2名おり、かかりつけ医との連携もとれている。看護師とは、24時間連絡が取れ、健康管理上の安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が居るので、気づきを伝え処置等の対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入、退院時には、病院、家族様との情報共有し適切な支援が出来るようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早めに気づき家族に報告し対応や今後の方針を医師の意見をもとに考え支援の在り方を決めている。	看取り指針を策定し、入居時、家族に説明している。利用者の家族から、看取りを希望され支援することとしている。系列グループホームでの看取りに際し、職員が出向いて立会い、経験を積んでいる。今後も、看取りについての研修を継続することとしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の勉強会実施。急変時、事故発生時に適切な対応が出来る様に看護師と連携している。対応方法も表示。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施。 適切な対応が出来る様にしている。	隣接のデイサービスとの合同訓練と、事業所単独での訓練を実施している。昼間に夜間想定避難訓練を1回実施した。昨年夏の大雨の際に避難の指示があり、市内にある系列の事業所へ全員避難している。このときの経験を今後の災害対応の教訓としている。	経験のマニュアル化を期待します。また、夜間想定訓練は実施しているが、暗い環境での訓練は未実施であり、今後、夜勤1人体制での夜間の訓練実施を検討することが望まれます。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドの高い人、その日の気分によって違う事があるので、声掛け、工夫等で対応している。	家族からの情報を得て、利用者の呼び名はさん付けやちゃん付けで対応している。日常の介護では、入浴時やトイレ使用時に、他の利用者に分らない様にする等の配慮を行っている。プライドの高い方への配慮やネガティブな情報は職員全員で共有している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動の都度、声掛けをこちらで決めないで、自己決定出来る様にしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて、食事が遅れたり、臥床したりしている。 行動静止しない様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出し等は、季節に合った服にして、希望があればその様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事をとても楽しみにしている為、味付け等には気をつけ、季節の物を提供している。テーブル拭き、後片付けを手伝ってもらっている。	花見の仕出し弁当、流しソーメン、バーベキュー、芋の子汁等、季節の料理も提供している。最近では、かまど炊きご飯に挑戦し、火の扱いや炊き具合は、職員より利用者が上手い。誕生日にはケーキを準備し、普段の手作りおやつは利用者皆が笑いながら食べている。テーブル拭き、食器拭きの手伝いはしているが、調理は出来なくなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定を行い、食事摂取量、水分摂取量を記録し、状態に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助する方が多いた為、個々の変化は気づき皆で共有している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日夜間失禁多量の方も、時間を決めトイレ離床し、排泄して頂ける様、努めている。	日中は、できるだけトイレで排泄し、最低限の排泄補助具の使用を基本としている。夜間は、定時に機械的におむつ交換することよりも、熟睡できるように支援している。現在、4名が介護ロボットを利用しており、睡眠、覚醒、脈拍呼吸管理により、居室臥床中の排泄管理の一助となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	参加出来る利用者には、軽体操等の実施。便秘の方には、下剤によるコントロールをしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に合わせた入浴をし、身体を清潔に保っている。	入浴は、日曜以外の午前中に週2回としている。利用者毎に入浴日を設定しており、利用者も曜日を理解している。夜間に入浴を希望する利用者には、夜間足浴で対応したりしている。失禁時はシャワー浴で対応している。浴室では、介護者と1対1の関係になり、湯船にゆったりと浸かりながら様々な話をする利用者が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の状態に合わせ、眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用する薬を理解し、症状の変化時、医師、看護師に伝え対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝い、行事参加、作品作り、施設内に写真、作品を飾る事により楽しみ、気分転換出来る様になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近辺は、田んぼ、畑が多く季節感が常を感じられるので、天気の良い日は、散歩を試みている。 ウッドデッキでの日光浴、四季折々には、ドライブ、花見、紅葉狩りに出かけている。	外出や散歩を出来る利用者が少なくなっており、天気の良い日は外に出ることを心がけている。 ウッドデッキでは、車椅子利用者も外気浴をしている。職員と一緒に精米に行ったり、理美容院に出かける利用者もいる。遠出のドライブの際は、デイサービスの車両を利用し、花見、紅葉等の四季を楽しんでいる。家族と一緒に葬儀に参列した利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事業所で管理している。ドライブ等で外出した場合には、おこずかいから支払いを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ご家族様に手紙を送り、グループホームでの生活状況を写真を入れて報告している。電話をかけたい方には、希望通りに電話をかける支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に掃除を手伝って頂いたり、温度、湿度等の変化により、エアコン、加湿器等で調節を保っている。季節により花を飾り、絵を描いたり、作品を作ったりして、季節感を出している。	共用のスペースは、日当たりが良く雰囲気も明るい。ホールには、季節の花や多くの手作り装飾品、色紙、職員が作った利用者の似顔絵や切り絵が飾られている。利用者の作品も所々に飾られて、似顔絵は、温かみを感じさせる秀作である。廊下の端2カ所にはソファがあり、利用者が一人で寛げる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに、テーブル以外にソファを2カ所に置き、1人になりたい時には、利用して頂いている。また、他の利用者との交流が出来る様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に普段着用していたり、持ち歩いていた物、家具、写真等を持参して頂き、本人の不安を取り除く様努めている。	各居室には、花の名前がつけられている。入り口の壁には利用者の写真が貼られ、目印となっている。室内には、ベッド、エアコン、空気清浄器、収納量の大きなクローゼットが備えられ、自由な配置がされている。壁には、家族写真や賞状等が飾られ、テレビや籐椅子、衣装ケース等を持ち込んでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のところに名前を書いたりして、目印を付けている。		